



東
六
以
才
中
之
竹
田
集
行
四

東京
圖書

東京
圖書

遠
1668
4



横谷富

本喜

全三佐

今様廿四孝卷之四目錄

郷貫庭

製

一 鼻あり礼よたの小指

新訂よる文字をまわり
ふりよ儀中風のあらわ

二 喰ひど楊枝削

取てり松籠あり
あまのぬきやけあり

漢字本

イセ

也

三 ともせの中ねね約焼

ゆきまはあつても、姉あり
兄弟はあつても、弟あり

四 ちよとむさしの神鳴

乳のあつても、父あり
赤いらつても、金銀あり

一 五十あ乃礼よたの小指

兼乃ようたる人のきまむせにハ掃らざるがら
とことふむしひあひしきるがら。むりいごう
ねぐるのりしてきうろふおごるよあつひながめさう
とあしく。をよあところのふとあべむあうとゆましたら
らぬぞと。たきいことろせんぞう。ゆしてひりやうふ
福ら付しゆり木。うろあもはなゆ。橋のあひ。やん
ちんのあひ。けらあはらあまらけらひかろふ。あくとあ
よあつても、ちよとむさしのねとよんでうしてそあつても。あまひ
のうらせも、あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。



このあつても
まじりあつても
むくれだよ
それ二もな
うそむかり
だよ



全三回老巻

とあつちらひつゝ物ずらへ。Pとちらひひんたり。ふあち
 とくせぢふふ名をいふ。このうへに家来がてんこむかひと
 へんせつと風つらうを中なり。むかひとていふは
 いまもていふそのすゝめをいふ。むかひとていふ
 まじりのこと。ふんといふはむかひとていふ。むかひと
 ぢみんむかひとていふ。後まのりむかひとていふ。ふん
 てとて女むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 かくん。不孝うとていふ。むかひとていふ。むかひと
 公乃むかひとていふ。ちむかひとていふ。むかひと
 里むかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 わるむかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。

髪とていふもむかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 ていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 鼻むかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 くむかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 むかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 ふむかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 ていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 してむかひとていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。
 とていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 ちていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 とていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと
 とていふ。むかひとていふ。むかひとていふ。むかひと

明 年七

卯がりの年七
 年むくれま
 りうだす



年七きりま
 好づりなを

ひがーだらへおけつわんじふあめあとの下にまゐりてわて男。
 ちろうくんと母がせんとまゐりてあまへまづおにさくん
 ぬうとせりさう。わさうぎらんとさうぬが。ひるは
 干よとぞもて。ちのちとさうがさそんあ。六条の屋敷
 ぬのがとばよまのり。他とすは男。ちろづら太ちくさ々と
 かこうろでもおぼめさんがありやうよやうとさうらわけ
 さん。卯月八日。あまの入用金十両。はく家と
 うりうけた。系をまごて。お下す。おあとの御所や所
 におちちあふふりてまより。今あへ人をのりすべ
 ごああり。おちちとて約のいであく。病おとせをりて成
 た。ちのあまごさうわ。おれぬおちよけりまづ。とあらむ

まて。あまふおんかろくはてりり。ま死さあめあきて
 いん家の。あままりておんびやうのさい中。おちちまきさん
 よそおのりすまかり。おち。あまのねつげとよる。おびい
 ちやよとらる。他へ入。あまおけむ。すて親のあか
 ちと。おぬぐかんびやうよとつら。あまんとさうさう
 ちろよれらる。さう分家家の事されむ。おちちまん
 ちん代よまよとや。さういさうの十女おとさなすあくね出
 して。さうはの事お前らして。病中。いきうはくあまの
 家。お利恩よまよとさうせて。始終。十日おりよて。親と
 ちろらる。あまのあきて。おち。おれぬ。おれぬ。おちちの。おち
 こまの十女。おちことらして。おち。おち。おち。

ちうはぎりのらびいしきりんがく懸はあぶさし火はつ
 むんごいしりくとさうくはぬはつそ十あの人まをふと
 むさんはりしと。ちまはむよしとさしきよつて家
 むんとあ中あくあしう。はさうけはつらつとあ身と
 さいふあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 ぬまうけぬまをぬまう。かりゆいものあつと。せんぬ
 ぬいりりらしきまあはあもまをぬまうぬらつと
 のらうしとあつとさうとあつとさうとあつとさうと
 てハ林ぞつひとけあらあつと。あつとさうとあつとさうと
 せんてすさよせんまはと。あつとさうとあつとさうとあつと
 せんてすさよせんまはと。あつとさうとあつとさうとあつと

びんよあはつとさう。あつとさうとあつとさうとあつと
 一やうぐさのあつとさうとあつとさうとあつとさうと
 井つとさうとあつとさうとあつとさうとあつとさうと
 ぬいさうとあつとさうとあつとさうとあつとさうと
 のまうとあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 のう。あつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 ばらばらとあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 のう。あつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 たよりとあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 まらふとあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと
 こつとあつとさうとあつとさうとあつとさうとあつと



おんあつとてりて井筒がぬいひまて作を来歌りて金
二十あるうらわつて三十あるは波さのかつらと
却けつびつひたまふへれみうのとてりぬ
あつたはあやうのさもさるぬをす
乃大いもさるすば共むとわんとしてしりわく
しあさ日ごのせんていおたの
たつたすで。當代の所を
おつともさるり

二 食縁と楊枝じり

たわく喰ひ者と
たわく

ほよ五膳とくやえ。何ぞかやわさ
回へあつたりや
いとせんせんせひも今時
このよわつたさ
福といで
あもあつた。祓
あつたの
ひつ
このよと
人。女房
た

ころんごう合たりとのいよあつてあふとぞそれ。すま
 ぶ業とおよしてまゝに柱よとのこみんごんごんあふ
 じ。母あちのまゝしてたけとま。父親のまゝのまゝとあつじ
 ちうぬまのまゝとあつてけり。こゝろづきとて口んやれ
 わらびとて。極をけくとやつる。おすぬいんわらふ
 むれがわらやまらば。せしむふ交徳をこたつとて男。
 ひしとまもや通してお徳かり実系をゆが母をわ
 づんよすまゝとてうたせらひとわけんや。おまうにまを
 てまれ年。風吹秋のすまはく。わらうあわやうらと
 火れおんるり。こたつがあ風をこまきうは吹つら
 かのほの中は母とすてとて。おまゝのれ性おまゝの

全帳。おまゝの帳と王はあのかへまのまひつふ。おま
 づんよまふまゝとて。おまゝのこたつとてぬまをこま
 全帳帳のへし。おまゝとてまゝにけり。おまゝのこたつとて
 ぬまをまれと。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝの
 考もお。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ
 まゝにけり。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ
 てまゝにけり。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ
 帳とまゝにけり。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ
 じ。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつとてまゝ
 ぬまにけり。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ
 すまにけり。おまゝのこたつとてまゝにけり。おまゝのこたつ

のあふれとまのひちうり。は時をいふてはまのあふれとまのひちうり
 うーがのとかめぬぐ。あふれかたのうらむのうらむのうらむのうらむの
 りんどうろ本と母人のあふれけいさくひのたふらむの
 ね。母とまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 ぶ。ごちうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 せぬらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 とのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 ぬぬぬ。うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 くあふらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 らむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 解とく。うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの

の月とまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 けいさくひのたふらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 らむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 て。うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 村舎のうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 けいさくひのたふらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 てのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 らむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 く。うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 わけとまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの
 て。うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむの

らくして今わいあまわく御より。この日のうちとて
 やうととんごけさ。海文よとんとでもいふも。
 二はのけさまん。おのんはまあともかひのかり。其方
 の金銀ねすもつれだ。おひかりかろあやんご。其
 運のむくは時とわひら。其恩の金銀された十被
 かいよとて。おひかり。おひかり。おひかり。
 け通ぬ。金銀おまらなり。おひかり。おひかり。
 けおと。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 けして。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 らく。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 けと。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。

ういづ。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 まして。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 らく。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 けと。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 けと。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。

三 さいせり申せぬ約

りあま。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 けと。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。
 よめ。おひかり。おひかり。おひかり。おひかり。

さどかき物怪もかき。父のまをせられてささと高
 ひ。卯月の末より七と来ハ新菜とるふ付くおぬりふ
 商人よかり。先づりける。才ハ高きいままぼほりうち中
 かねと高賣ふ積と出。世とよまよとさうとあるは。と
 君よめあまうとあまぶげなまをとりむ。いの菜つとあ
 ひくふりあまうとまよとさうとせよ。うこをせてさうを
 けり。よめつる人の昔をと申よりまこのまんといま。高賣
 のあまも。うけの時あま面ふ。とまねほ。人の心は
 くり付る。あまうとあまぶげなまをとりむ。年のよりれり
 うよ。つて。おぬり。とよめ。あまふ。あまう。やあま。うん
 といつて。いと。つる。あま。高賣。ふ。ま。う。と。さ。う。と。は。

先づ。さうと。あま。ぶ。げ。な。ま。を。と。り。む。の。年。の。よ。り。れ。り
 て。な。つ。と。ま。よ。と。さ。う。と。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 せ。て。ま。よ。と。さ。う。と。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 き。さ。う。と。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 と。な。れ。よ。び。つ。て。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 う。と。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 よ。め。つ。る。人。の。昔。を。と。申。より。ま。この。まん。と。い。ま。高。賣
 の。あ。ま。も。う。け。の。時。あ。ま。面。ふ。と。ま。ね。ほ。の。人。の。心。は
 くり。付。る。あ。ま。う。と。あ。ま。ぶ。げ。な。ま。を。と。り。む。の。年。の。よ。り。れ。り
 う。よ。つ。て。お。ぬ。り。と。よ。め。あ。ま。ふ。あ。ま。う。と。は。ま。よ。と。さ。う。と
 とい。つ。て。いと。つ。る。あ。ま。高。賣。ふ。ま。う。と。さ。う。と。は。

づいよつとあほりけふ七きあつらうこたんやもろ
 ぬれちぞやとどうころのどろ脚とあえらるおれをのどろれ
 とかんえけつこせいひえそとらぬ女がういまるのこえな
 だきうやけつちびつらちた目いせんせふのあやま
 らよしてひかえりて。地水たけとんたれらうれれぐ
 ちうとあこの四かんたかひひあつらあへく目らひなの
 うらもも何ぞあまごの命とのどろりたひまもれち
 やまひそわんそと。母のんれはとやあえく。地茶の
 あやまらうれかんあんのめらあつらあらうのあうとあご
 ろとらわらうらうらぶこはわらあひびらあふあはだそ
 一うたあるといひまをうらぬとらんあつらあうとあごにう

くのはらうそまぬそはあつら。何のあつらうこたん
 ひとたれに。いひあつらひはあつらあつらあつらあつら
 ちてはびひひあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 一だご。あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 七きあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 といひ。七きあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 一あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 母あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 とらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 一あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 母のあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

一、*filial piety* の義を説く。孝の字、子と心と。
 二、*filial piety* の行は、父母を敬ふ事。
 三、*filial piety* の行は、父母を養ふ事。
 四、*filial piety* の行は、父母を事ぶ事。
 五、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 六、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 七、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 八、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 九、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 十、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。

一、*filial piety* の義を説く。孝の字、子と心と。
 二、*filial piety* の行は、父母を敬ふ事。
 三、*filial piety* の行は、父母を養ふ事。
 四、*filial piety* の行は、父母を事ぶ事。
 五、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 六、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 七、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 八、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 九、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。
 十、*filial piety* の行は、父母を敬養事ぶ事。

大坂屋のいひにうのくらとやら。おだうく屋のいひに
 かねんしてやういふそとより屋をいふといふていふていふていふ
 合はらしてやういふそとより屋をいふといふていふていふていふ
 一おまとして男はむづむづいふといふていふていふていふ
 いらうれすまきいふていふていふていふていふていふていふ
 まぬちのいふ人のいふまきいふていふていふていふていふ
 へかいていふていふていふていふていふていふていふていふ
 とらまふらうていふていふていふていふていふていふていふ
 ぐ。いふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 まういふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちらうんすまきいふていふていふていふていふていふていふ

まわとやういふていふていふていふていふていふていふていふ
 ひていふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 のまふわいふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちかふとやういふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちかふとやういふていふていふていふていふていふていふていふ
 のおけいふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 のおけいふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 へかいていふていふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちかふとやういふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちかふとやういふていふていふていふていふていふていふていふ
 ちかふとやういふていふていふていふていふていふていふていふ

此小世よりちくさほく忠直とす。つうとてつう一社田まつり
 おんうめあつとぬじひのきとてあまの命とすつうやめのみ
 ひさろよとてやとてあや。今附せしよ。つうてあま。本撰
 町さう町のねね。つうやま。本撰でねねとあまふせんとあ
 んとてあま。びびす。つうてあま。のあま。つうてあま。つう
 くもにま人がすう。ねね。つうてあま。つうてあま。つう
 かねとてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 つうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 づうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 づうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 てあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう

とめあまのつう入と。つう入と。つう入と。つう入と。つう入と。
 やかか。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 つうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 づうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 づうてあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう
 てあま。つうてあま。つうてあま。つうてあま。つう

うんぢりしびぢりきつらふは縁を十兼とがんで。そらハ
 命乃のちやとくされけつぞうくの事しねわられぬ。ぬを
 より縁をきまうくとねかして。よろづゆ先くまらせ
 小敷ふすのころらびよごもあついでな。うらかたはま代
 ちてやとけをせのは合をう。かしてあまころうすが
 とまづけがくれ。月さらしてやうくみ月けらの夜。むそんか
 が念乃あかりんか。かうくのすごこよとまのびまうらご
 わくれもるんたごらよと。あまのついで。ついで。ついで
 分たしり。こよひこそ。ついで。ついで。ついで。ついで
 こみ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 びとの。くり。きつ。きつ。きつ。きつ。きつ。きつ。きつ。きつ

かれそ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 十兼がうらづとせよ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 くまら。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 てつあ。の村。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 と。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 ろ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 な。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 縁を。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 何。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 る。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ
 ま。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ。あつめ



我のめくいと多きなりしをさまたちてあつてしにかいせふは
 よひにうたりて。海をまへてうりくひかきわたりてしなむなり
 と。いふはふいにふりしをみかていふおのころもしてしむ
 と。おのころのまふてふ。いよひのまほひをりてりてりてり
 はびりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 のゆりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 んよとてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 一がにやてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 あつてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ふかひてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 くぞや。げんがいのめやよはくぬらうりてりてりてりてり

免からうりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 つふてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ごとく。二彩色天井のやうきよ。牧性として。たのまの
 下にかげとてあふてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 くとりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 と。いひてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 けるりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 海よかりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 せを

今様古田考巻四終



卷四

三

